

2022 新理事長

―就任の抱負は。

「当金庫の存在意義『地域とともに素晴らしい明日をつくる』を実現するため、信念を持って理想を追求し、2年後の創立100周年に向けて全力で取り組む。役職員には、心技体のバランスの重要性を訴えてきた。体は職員の健康や経営の土台となる店舗。そして、穏やかな精神状態と攻める姿勢を持つた心。技は知識やスキル。これらを身に付けて取引先の役に立つ提案を考えて実行する。この積み重ねが、当金庫とお客さま地域の発展につながると確信している」

―本年度の経営方針は。

「2020年度から始まった中期経営計画の最終年度を迎えた。足元では、新型コロナウイルス

岐阜信用金庫 (岐阜市) ^{よし おか} 好岡 ^{まさ ひろ} 政宏氏 (64)



【略歴】名古屋市立大経済学部卒。1982年入庫。人事部長などを経て2014年に理事に就任。常務、専務、副理事長を歴任し、22年4月から現職。趣味は大相撲観戦。安八郡安八町在住。

課題解決型営業を深化

ルスやロシアのウクライナ侵攻、物流の停滞、物価高騰、円安進行など、先行きが不透明な要素を挙げると切りがない。新型コロナウイルスの実質無利子・無担保融資で資金繰り支援が行き渡ったこの見方があるかもしれないが、まだ必要な顧客は潜在している。事業承継やM&A(企業の合併・買収)、デジタルトランスフォーメーション(DX)、脱炭素化など経営相談は多岐にわたる。職員の知識とスキルを

高め、関係強化に力を入れる。アプリバンキングといった非対面取引も推進し、お客さまの層を広げたい」
―東海地域の金融機関を取り巻く事業環境は。
「当金庫は岐阜県に60、名古屋市と愛知県尾張地区に29の店舗を構えている。自動車と航空宇宙産業を中心としたものづくりが盛んな地域で、人材と後継者の不足、DX化の遅れの課題がある。両県ともに金融機関の

競争が激しく、差別化を図った営業展開は不可欠。事務作業を本部に集中したり、タブレット端末を活用する店舗を増やしたりして店舗職員の作業を効率化し、営業に充てる時間を増やす。課題を抱える企業に、タイムリーに金融サービスを提供する課題解決型営業の深化を目指す」
―県内外で活発化する金融再編の考えは。
「厳しい環境下での金融再編の波は十分認識しているが、庫内体制の見直しや財務基盤、収益力を安定させて独自の力で営業を続ける。店舗網を維持する考えも変わりはない」
―2年後に創立100周年を控える。
「プロジェクトチームを発足し、記念事業を検討している。10年、20年先を見据え、職員のレベルを引き上げ、特定分野に強みを持ち、多岐にわたる分野に対応できる金融機関を目指して安定基盤を築き上げていく」